

# 令和7年度 学校「学ぶ力」育成プログラム

自ら課題を見付け、自ら学び、自ら問題を解決する資質・能力

学校番号：26005

「学ぶ力」	
これまでの 成果	課題
<p>◇児童アンケートから「質問や意見、感想を考えながら聞く児童が多い」という実態がある。</p> <p>◇教職員の授業実践の振り返りから、課題をある程度解決した後に、問い直しの場を設定することで子どもたちが多面的・多角的に考えることができたという意見が多かった。そして、子どもたちがさらに思考を深め、実生活に役立てようとする姿も見られた。</p>	<p>◇学力テストの学力偏差値については、昨年度と比較し国語・算数とも微増となったが、札幌市平均と比べてみても、大きく差があり、本校児童の学力は厳しい現状である。</p> <p>◇児童のアンケートから、「自分の考えをもち、グループや学級で発表するのを苦手としている児童が多い」という実態がある。</p>
「学ぶ力」の基盤〈協働を通して磨く相互承認の感度〉の現状と課題	
<p>◇児童のアンケートから、「自分で自分の好きなところを見付けることができる児童が少ない」という実態があり、自尊感情については本校の大きな課題である。教師の日常の見取りや一人一人の関わりを大切にすることに加え、子ども同士による相互評価の場を設定し、全校朝会やブロック朝会で発表するなどの工夫が必要だと考えられる。</p>	

「学ぶ力」の育成のために着目する資質・能力

高い意欲をもち、主体的に問題を解決する力

	AARサイクルの視点で捉え直した 課題探究的な学習の推進	さっぽろっ子宣言「プラスのまほう」に基づく 自治的な活動の充実
取組	<p>◇身近な話題や資料を提示することで、学びの見通しをもち、課題を自分事として捉えるイントロダクションの充実</p> <p>◇子どもが自己選択・自己決定できる学習展開の工夫 →「きく力」を身に付けるとともに「やってみよう」という「切実性をもった問い」</p> <p>◇子どもたちが課題に対して一定の解決をした後に、新たな立場や視点に立って考えを再構築することができる「問い直し」の設定</p> <p>◇子どもたちが「何を学んできたか、どのように学んできたか」を振り返る場の設定</p>	<p>◇子どもたちの意思が実生活に反映される活動の設定</p> <p>◇自分たちの行動に責任をもって課題に取り組む ASU（挨拶運動）委員会活動の推進</p> <p>◇一人一人が大切にされていると実感できるように、仲間のよさや頑張りを見付けたり、感謝の気持ちを伝えたりする「いいね！金メダル」の取組</p> <p>◇パートナー校区との交流・協議の場の設定</p> <p>◇四半期に一度、自分たちの生活を振り返る場の設定</p>

〈本プログラムの実行に向けて〉

